

「薬用石けん」なぜ米国で禁止に？

ノロウイルス、インフルエンザなどが流行

すると、だれしも「殺菌」「抗菌」「薬用」と

書かれた「薬用石けん」に効果を期待し、ド

ラッグストアなどで購入する人は多いはず。

しかし、薬用石けんの中に含まれ、殺菌効果

があるとされてきた成分に実際はその効果が

なく、切り替えが進んでいると知っている人

はわずかではないだろうか。

発端となったのは、昨年の米国の動きだっ

た。米国食品医薬品局（FDA）は、抗菌作

用があるとされていたトリクロサンなどの19

の成分を含む薬用石けんやハンドソープなど

の製品について、米国内での販売を1年後に

禁止するという声明を発表した。

トリクロサンは、かねてから人体や環境へ

のリスクが研究者などから指摘され、FDA

は2013年に細菌

除去において普通の

石けんよりも優れて

いるというデータを

示すよう石けんメー

カーに対して求めて

いた。しかし、十分

な回答は得られず、

この声明に至った。

FDAの医薬品評価研究センター（CDE

R）のジャンネット・ウッドコック所長は16年の

声明の中で、「消費者は、抗菌成分を含む石け

んが細菌の繁殖を防ぐと思っっているかもしれ

ません。しかし、その成分が一般的な石けん

を使った手洗い洗浄よりも、感染予防に優れ

ているという科学的証拠をわれわれは持って

いません」と述べた。

各国の禁止と耐性菌

FDAの声明の後を追うように、日本政府

が動き出した。16年9月7日に菅義偉官房長

官は記者会見で「日本においても同様の成分

を含む商品の確認を早急に実施し、とるべき

措置について検討を行っていく」と発表。そ

の後、厚生労働省が都道府県を通じて製造販

売会社に通知を出した。内容は、同じ19成分

を使った薬用石けんについて、他の成分への

切り替えを企業に促す発表だった。

トリクロサンを含む石けんには、そもそも

効果に疑問の声があがっていた。国内の石け

んメーカーである「エスケー石鹸」がトリク

ロサンを含む一般製品でその効果を自社検査

したところ、無添加石けんを使用した場合と

比べ殺菌効果は確認できなかったという。

『殺菌』や『抗菌』をうたいながら、実際は

健康被害の方が大きいのではないかと同社

の小林衛さんは指摘する。

FDAの声明でも、トリクロサンは効果が

疑わしいだけでなく、「抗菌成分を長期間に

わたり使い続けることで、健康への悪

影響を及ぼす可能性があるとのデータ

がある」としている。

FDAが販売を禁止にした代表的な

成分であるトリクロサンとその健康被

害について、世界の動きをチェックし

ているNPO法人「ダイオキシシン・環

境ホルモン対策国民会議」の植田武智



調べてみました!

イラスト：館野美保子

たての・みほこ 東京都生まれ。イラストレーター。「ちい散歩」(実業之日本社)などのイラストを手がける。

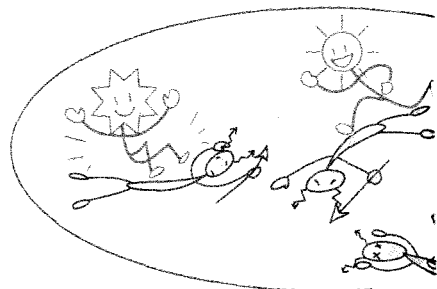
さんは、「EUや米国では甲状腺ホルモンなどをかく乱する作用があることが動物実験で指摘されていて、世界の環境NGOの間では使用禁止にすべき化学物質として長年問題視されてきた物質」と指摘。

EUでは米国の動きと並行するように危機意識が高まり、15年の時点で人の肌や頭皮の殺菌効果を目的とする衛生用品へのトリクロサンの使用を禁止する決定を下しているという。

さらに問題は、長期使用による悪影響に及ぶ。植田さんが人体への影響とともにあげるのは、「耐性菌」の発生の問題だ。

「米国医師会(AAMA)は02年の時点で抗菌剤入りの洗剤を日常的に使うことにより健康被害や耐性菌を生み出す危険性があると警告をしています」

耐性菌とは、長期的に使用することで殺菌成分への耐性を持ち、成分を投与しても死ななくなつた菌だ。殺菌のための「薬用石けん」にもかかわらず、耐性菌を新たに発生させ、逆に一部の菌の繁殖・拡大につながるという矛盾も生まれかねない。



成分切り替えだけでは不十分

取材中に街のドラッグストアをのぞいたところ、すでに対象成分の入った石けんやハンドソープ類は陳列棚に並んでいなかった。しかし、今回のFDAの声明、厚労省の通知はあくまでも薬用石けんに限ったものだ。切り替え対象のトリクロサンやトリクロカルバンなどは、これまで汗ふきシートや歯磨き粉、化粧水、シャンプーなどにも使用されているが、それらの製品については触れられておらず、社会的な認識度合いも低いようだ。

一方、対象成分を切り替えた際、取って代わる別の成分の有効性や安全性は確認できているのか。薬用石けんなど、医薬品医療機器等法(旧薬事法)上「医薬部外品」に指定されるものは、厚労省および都道府県の審査を経

て承認を得なくては市場に出荷できない。だが、日本においてはこの審査の中身が非公表な点が問題だと植田さんは指摘する。

「審査が非公表なうえ、企業は企業秘密としてデータを公表しません。その結果、商品の安全性について国民がチェックできないという仕組みが長年続いています。日本の業界ではトリクロサンに代わる『塩化ベンザルコニウム』

が注目され、大手メーカーは消臭・除菌スプレーの成分にこれを使用していますが、その安全性は不明のまま。切り替えだけでなく、殺菌・抗菌成分全般についての有効性と安全性について再評価を実施し、評価内容を公開することが大事です」

エスケー石鹸の小林さんは石けんそのものの本質的な役割は、汚れを落とし病気の発生や感染を防ぎ、健康的な生活をおくることだという。

「生活に必要なのは、皮脂汚れを落とす、衣類を清潔に保つ、食器を洗うという3タイプの石けんです。その役割を果たすためには、無用な化学物質は必要ありません」

× 上垣喜寛

うえがき・よしひろ 1983年生まれ。フリーライター、映画監督。共著に「震災以降」(三一書房)ほか。映画「自由貿易に抗う人々」。